

秋田県名誉県民 小 畑 勇二郎 氏 功績



生年月日 明治39年9月19日生

顕彰年月日 昭和56年3月25日

【功績】

秋田県北秋田郡早口村に生まれる。大正13年、県立秋田中学校を卒業して帰村。小学校代用教員を経て、昭和2年、早口村役場書記となる。

昭和9年、県書記に任ぜられ北秋田郡財務出張所に勤務。以来24年間にわたって県に在職し、文書、庶務、調査の各課長、総務部次長及び民生部長等を歴任した。

昭和26年、秋田市助役に転じ、ついで昭和30年4月、県民多数の支持を得て秋田県知事に就任。爾来6期24年の間、県政の進展に尽力し、また、全国知事会副会長の重責を果たすなど、地方自治の発展に貢献した。

この間、「民主主義の基盤は地方自治にあり、地方自治の根幹は市町村にある」を政治信条とし、「県政の主人公は県民である」ことを県政のうえで具現すべく、日夜精励を重ねて多くの業績を残した。その主なるものは次のとおりである。

福祉の面では、全国に先がけて老人医療費の無料化を実施するとともに、心身障害者施設「鳥海コロニー」や脳血管研究センターを設置した。

産業面では、稲の三早栽培や健康な稲づくり運動などによって全国最高水準の稲作技術を定着させるとともに、新たなる構想のもとに集落農場化、圃場整備の通年施行、農業近代化ゼミナールなどを実施して食糧基地の基盤づくりに努め、また1万ヘクタール造林を累年実施するとともに、木材工業、機械金属工業、酒造業等の地場産業の育成に力を尽く

した。

生活環境面では、新秋田空港や流域下水道の建設に着手したほか、道路網、港湾の計画的な整備を進めてその面目を一新し、なかでも世紀の大事業といわれた八郎潟の干拓をはじめとして新産業都市の指定、秋田大学医学部の開設などは、当時ほとんど実現不可能視されていたものであった。

このように秋田県政の伸長、地方自治の発展に尽くした功績は、人情味あふれるその人柄とともに、永く県政史上に光彩を放つものとして、県民ひとしく誇りとし敬慕してやまないところである。